



座 談 会

北海道美術 あすのために

出席者	道立美術館長	工藤欣弥
	北海道新聞社論説主幹	山川力
	全道美術協会々員	本郷新
	〃	栃内忠男
司会	〃	本田明二

1968. 6. 5. グランドホテルにて

本田 ご多忙のところご出席いただき、どうもありがとうございます。今年は北海道百年の年でもあり、過去を振りかえりながら今後のことについて、いろいろお話をしていただきたいと思います。

今年の始めに町村知事が文化団体の代表者をまねいて、いろいろ意見を聞かれたそうですし、政府では文化庁を作るし、文化政策に関心が示されている時でもありますので、今日は北海道の文化政策についていろいろと注文を出していただきたいと思います。

そこで最初に知事との座談会に出席された時の様子を栃内さんに話していただきましょう。

■ 北海道に芸術大学の設置を

栃内 知事は北海道における美術の現状を聞かれましたので、僕は美術界の歴史から現在の様子などを話しました。

工藤 それから美術館のことができましたね。

栃内 知事は北海道の文化について、できるだけ力を尽したい、そのことについて意見を聞きたいということで、私たちを招いたわけです。芸術家は今まで、北海道では仕事がしにくいのか、その場を中央に求めて進出していつたけれど、それを北海道で活

躍してもらうためにはどうしたらよいか、ということとを話題にしておられました。

本田 中央進出の問題ですが、そのためにはやはり北海道には専門的な学校がないということも大きな原因だと思うのですがどうでしょう。

本郷 芸術大学に入るために東京にでてゆき卒業しても仕事は東京にあるために帰ってこない。農民なら畑があってそこで仕事をする。いもやトーチキビを作っているが、冷害が続いて作物ができないから生活に困って離農するという、それと芸術家が北海道をはなれて東京に出てゆくのは理由が違ってきますよ。

教育施設としては、教育大学に特設美術科があるが、いわゆる四年制の専門の芸術大学があって、東京と同じような教育ができるようなものがほしいですね。それがあれば東京へ出てゆくのはある程度防げるでしょう。しかし東京は年中展覧会があって、常に刺激が与えられているし、その上美術館が沢山あるあたり、北海道と条件がちがいますね。東京は何も特別メンが食えるというわけではないですよ。

本田 そうなると北海道でも専門的な学校をつくって人材を養成するということですね。道新の『卓上四季』も、美術評論家の匠さんや書道の石田さん、画家の誰かが東京に行ってしまったことなどとりあげていましたね。

本郷 そうですよ（力をいれて）匠さんの場合にしても、研究の材料が北海道ではどうにもならないという悩みがあったでしょうし、美術評論家というだけで評論家としての中身が充実しないわけですよ。

山川 『卓上四季』に取りあげたのは僕なんですけど、芸術家が東京に出てゆくのは、何もかまわないと思います。何も道外に出ることに不安を感じる必要はないんです。要はいつもほかの場所との交流ができるような条件を地元でつくってやるべきでしょうね。そのような交流の中でこそ、伸びるものは伸びるということですよ。

栃内 これは北海道だけでなく、他の府県でも同じこ

とですね。

本田 そこで学校の話ですが、道立の専門的な大学を作る可能性はどうですか。

工藤 北海道に美術や音楽の学校をつくるとしましても、金の問題もさることながら、先生を集めることがたいへんなんでしょ。現在までのところでは、あまり強い意見としては聞いていませんが、必要なことだと思いますし、今後検討すべき問題だと思います。

山川 北海道にも美術大学を作りたいという意見は前からありましたが、やはり九州とか北海道のように中央から遠い地域には、ぜひ芸術の教育機関を考えなければならないでしょう。文化振興のためにも国立か道立のものができればいいですね。

本郷 九州の福岡に国立の芸大ができました。

栃内 愛知にも県立の芸大ができましたし――。

山川 九州の芸大設立運動は私の友人がやっていて、ついにものにしたのですが、北海道には美術館もないのに、芸大というもおかしい。そういうわけでまず美術館の方が先にということになったのです。（笑い）

本郷 九州にある公募展でオール九州展というのがありますが、全道展より盛大だし北海道の場合より九州出身の作家も、在住の作家も多いということですね。

山川 だんだん北海道にも美術館と芸術大学をつくる機運が熟してきましたね。

本郷 それから北海道の工芸は弱いですね。なんとか振興策がほしいな。道の工業試験場には焼物はあるが、織物はないわけでしょう。

本田 いや織物もあります。しかしどうも我々の眼から見ると技術の研究であって、生産と結びついていないように思えますね。

本郷 業者でもいい、あるいは個人でもいいから、北海道の工芸界に窯業の小森さんのような人がどんどんあられてほしいですね。もっと北海道的なおもしろいものができるんですがね。木工にしても、もっと基礎的なデザインの裏づけがほしいものです。

栃内 北海道に芸術大学があれば、工芸の面でも、もっといいものが生れるんじゃないですか。

■ 自然美の保護や都市美のために もっと専門家の意見を

本田 そのほか自然美の保護や街の美化のこともありますが、そのようなものを計画の段階で検討するような機関がほしいと思うんですが、工藤さんどうですか。

工藤 自然公園法や文化財保護法がありますが、自然公園や天然記念物の指定地域に限られていますね。それに屋外広告の取り締りですね。

本郷 道には都市美委員会のようなものはないんですか。

工藤 緑をたいせつにとか、街を美しくということで市民意識を高める運動はあります。

栃内 都市美委員会のようなものが道にも市にもあって、積極的な活躍をしたら、もっと街もよくなるでしょうね。

本郷 たとえば大通りに、塔や彫像をたてるという場合、スポンサーがありさえすれば簡単に出来てしまう。それがその場所にふさわしいかどうか、審議する機関がほしいなあ。

山川 いつもそのようなことが問題になっていますが、それは新しい都市計画などによって処理していくべきでしょう。札幌のようなまちづくりに、もっと夢をもちたいものです。

本田 公共の場に立つ記念碑や彫像について新聞などでたびたび批判的な意見などありますが、それにつ

いて――

本郷 公共の場に立つものは、当然市民の意見も必要だけれど、専門家による権威ある審議会のようなものを作って、計画の段階で十分検討される必要があるんじゃないでしょうかね。

そうでないと趣旨はよくても、鑑賞にたえないものが平気でまかり通るようになるおそれがあるんじゃないだろうか。

工藤 外国では市民の美術鑑賞眼が高いため、質の低い作品が街に立つことを許さないし、できないんですね。要は市民の美術を見る眼のいかんによってきまってゆくんですね。

栃内 ほんとに外国では街に彫刻がいっぱいですからね。札幌には彫刻が多すぎる、などという人もいますが、良い彫刻が街の中にもっと沢山ほしいと思います。

山川 何をやるにしても、もっと芸術家を利用すべきですよ。余りにも利用しすぎると。知事さんが芸術家を集めて懇談会を開いたが、それを実践の場にもって行ってもらいたいものです。

本田 工藤さん、それについて何か具体的な――。

工藤 道の教育委員会でも、美術館を窓口に行政と文化関係者とのパイプの役割をするように努めています。

■ 美術館は独自の企画で収蔵品を 増やしてほしい

本田 政府では文化庁を作りましたし、道でも社会教育課の中の文化振興係ではなく、もっと大きなセクションをつくってもらって、もっと独自の計画で活躍してもらいたいと思います――。

本郷 文化庁も文化統制の機関にならなければいいですがね。それに文化振興係ばかりでなく、美術館も独立したセクションにして、もっと独自の仕事ができるようにしたいですね。例えば神奈川の近代美術

館長など県の三役と同格の権限をもっていますからね。

山川 だまっけてもそのうちに道でもそうなるでしょうよ。

栃内 ほんとにそうならなければ、美術館はよくなりません。

山川 道議会の中にも絵を描く人や、芸術に理解のある議員さんもいるんですから、芸術家も議員諸氏ともしっかり話し合う機会を作るべきですね。

本郷 グルノーブルのオリンピックの時に、展覧会を見て来た札幌市の板垣助役さんは、感激したと新聞にでていましたが、助役さんが芸術についてくれるといいと思っているんですがね。

本田 板垣さんもこの座談会にでていただく予定だったのですが、都合がつかず欠席されたので、そのことについては近くお会して話を伺って来ますが、これは美術館の本館のこととも関係があると思いますのであとでまたふれるとしまして、今後の美術館の活動として、美術品の収集計画などについて――

工藤 今後の収集については、基本的方針をいま検討中です。思いつきで買ったり、もらったりというのでも困りますので。

本郷 美術館としては調査部というような形で、作品の所在調査も必要ですね。

工藤 現在ははまだそこまで手がのびませんが、追々調査もし、その路線だけはしっかりしておきたいと考えています。

栃内 毎年予算を組んで良い作品を買いあげ、だんだん収蔵品をふやしてもらいたいですね。

工藤 作品の購入だけでなく、寄贈の方もこれまでに小森忍さんや林竹治郎さんの作品、本間莞彩さんなど全部で二十数点になっていますし、だんだんふえると思います。

山川 作品の収蔵とか買いあげは次の問題にして、中央の展覧会をもってきて公開することが先決ですよ。買うとすれば金の問題ですので、誰の作品を購

入するかよりも、今は予算をいくらつけてくれるかが先決でしょう。ですから道は買うばかりでなく、道内のコレクターの名品を借してもらおうとか、北海道でもそろそろ美術館をそっくり寄付する人が出てきてもいい時期にきているんじゃないですか。開道百年だから、蓄積ももう出来ているはずですよ。

本田 それだけに頼らず、栃内さんも言っておられたように、美術館自体の予算で買う努力もしていただきたいですね。

山川 絵は高価ですからね。コレクターからの寄贈があってもいいですよ。

工藤 大阪の市立美術館に行って驚いたのですが、三千点以上もの寄託を受けているんですね。

本郷 道内にもおおぜいのコレクターはおりますよ。

山川 美術品というものは私物化するものではありませんからね。

工藤 買うのは大変なので、できるだけ寄付か寄託をしてもらおうようにしたいと思います。

山川 それは工藤さんの大きな仕事ですね。

本田 そうなると調査活動は大いに必要になってきますね。

栃内 工藤さんは美術館長になられてから二年目ですが、長く腰をすえてやっていただきたいですね。人がかわると考えもかわるので、今迄のことは切れてしまいますし、外国なんか任期は八年ですからね。

本田 初代は軌道にのるまでが大変ですから、しばらくかわらないでほしいな。

山川 工藤さんは基礎造りが最大の仕事ですね。

栃内 お金も美術館長として、美術館のために自由に使える柔軟性のある予算ももらいたいですね。

本田 それが今では一番弱いのではないですか。(笑い)

本郷 美術館はそれほど大切なものだというのを初代の時に確立してほしいですね。そうでなければ官僚的なものになってしまいますよ。

■ 道立美術館本館建設の見通しと今後の計画

本田 いよいよ話は美術館に集中してきましたが、工藤さん今後の計画について。

工藤 道立美術館の今後のことをお話する前に、道立美術館は三岸記念館ではないかと言うように言われておりますが、私たちはあくまでも道立美術館であって、そのためには北海道における美術センター的存在にならなければいけないと思っています。そこで今年は「北海道秀作展」を計画しまして、50点の出品作品の中から、一点の美術館賞を選んで、道内の美術活動をなさる方々とのつながりを強めてゆきたいと思っています。

また出版事業として、三岸好太郎の伝記の出版も計画してありまして、すでに匠さんをお願いして六百枚程の原稿も、ほとんど完成しております。

それから、美術館の使命として道外からすぐれた作品をもって来て、道民に見ていただくということもだいじな仕事ですから、この7月には日本画の専門美術館である、東京の山種美術館から作品を借りて展覧会を開きます。

また、先日匿名の投書で三千元送ってくれたかたがいまして、東京で開かれていますモジリアニ展のようなのもって来てほしいということでした。そういうよい展覧会の開催のために将来そのお金は使いたいと思っています。

ところで芸術の振興のために行政はいつたい何をすべきかということですが、私はこう考えています。

産業の振興のためには、その基盤となる道路や港湾の整備が必要なのと同じで、芸術の振興のためには、その基礎となる文化施設の整備がたいせつです。いま北海道で一番望まれているのは本格的な美術館、音楽や演劇のための質のよいホール、それに文学館の三つではないかと思えます。

このためには文化人と道行政との間に、太いパイプがいつも通じていることが大事だと思っています。

本田 オリンピックには外国人もたくさんくるわけですから、なんとかその時にはりっぱな会場で芸術展示が開かれるようにしていただきたいものですね。

ところで道の開発年次計画のようなものの中には美術館建設は出てくるのでしょうか。

本郷 たとえばオリンピックまでには建築するというようなメドは――。

工藤 時期の問題などまだ具体的には何もきめてありません。総合開発計画も昭和46年から第三期計画に入るわけですので、それらの計画はことしから着手することになっており、文化施設についても充分検討されることになると思います。

山川 ずばりいいますと、時期は札幌オリンピックまで、場所は中島公園に。道側と市との話し合いでみちは必ず開けますよ。町村知事の在任中に着工だけでもしてほしい。

柄内 オリンピックに外国人が北海道に来るということは、つまり日本に来るということなので、その時外国人に見せてはづかしくない美術館がないのでは困りますね。

工藤 ことばは通じなくても、音楽や美術はわかるのですから、りっぱな芸術展示をやらなければなりませんね。

本郷 博物館にしても函館や網走や釧路にあるのに、北海道の中心である札幌にないのは恥しいことですよ。

工藤 さっき山川さんから夢がないというお話がありましたが、私はたとえば日本の古い文化が京都や奈良にあるように、日本の新しい文化が札幌にある。そういう札幌の街づくりを北海道第二世紀のビジョンにすべきだと思います。

本田 明確な結論も出たようですし、ではこのへんで座談会を閉じたいと思います。どうもありがとうございました。

(記録 小林歌子)